

CP-6-Ⅲ-04	<b>司法と薬学</b>	第6学年	前期 選択	0.5単位
<b>担当者</b>	斉藤 貢一・森 友久・大森 毅・城 祐一郎・福永 龍繁			
<b>一般目標 (GIO)</b>	自然科学と社会科学の原理・技術を犯罪捜査などに適用し、司法の場において犯罪を裁定するために貢献しているのが法科学です。裁判員制度が導入され、薬剤師として関連領域の動向を把握する。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	薬学では従来、「裁判化学」として講義されていた分野ですが、科学的な捜査の重要性は社会的にも高く認識されています。関連の最新動向を理解し、薬学出身者がどのような活躍をしているのか修得します。			
<b>受講心得・準備学習等</b>	薬学における応用科目ですが、我々の身近な生活の中に事例を見いだすよう意欲的に勉強を進めてください。「分析技術の臨床応用」とも関連が深いことから、両方の科目を照らし合わせながら学習を進めることが望ましい。			
<b>事後学習・復習等</b>	講義は、基本的に実社会での実践的な事柄を中心に、復習することなく理解できるように進めていきますが、理解不足なところは関連する科目を参照してください。また随時質問を受けるので疑問点を残さないよう事後学習を行うことが望ましい。			
<b>オフィスアワー</b>	講義のある曜日(金曜日)の16時から18時。メールによる質問・相談は随時受け付けます。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式	
回	項目	内容	担当者
1	麻薬取締行政の概況	裁判化学の意義・歴史と薬剤師の役割	斉藤
2	法医学(死因究明制度)	法医学と薬学との関連法規、日本の死因究明制度の概要と課題	福永
3	乱用薬物の薬理	概要と依存性薬物、毒物薬物の薬理	森
4	薬学と科学捜査	生物・化学鑑定の概要と取り組み	大森
5	交通事故捜査における薬学等の役割	危険運転事犯等における薬学等自然科学の活用状況	城
6	薬毒物の分析	毒物分析の概要、乱用薬物の分析、ドーピング問題	斉藤

<b>成績評価の方法</b>	定期試験の成績および受講態度で成績を評価します。
<b>成績評価の基準</b>	定期試験の点数が60パーセント以上を合格とする。
<b>教科書</b>	なし
<b>参考書など</b>	田中則幸他「学生のための法医学」(南山堂) 山本達男「炭疽菌 Bioterrorism」(考古堂書店) 勝又義直他「NEW 法医学・医事法」(南江堂) 福島弘文「法医学」(南山堂) 日本薬学会編「薬毒物試験法と注解 2006—分析・毒性・対処法—」(東京化学同人) 西 勝英訳「スポーツと薬物」(医薬ジャーナル社)